

「感染症に強い学校」を目指して 北海道教育委員会

新型コロナウイルス感染症が収束しても、季節性インフルエンザの流行や新たな新興感染症への備えの必要性などから、長期的な視点から「**感染症に強い学校**」づくりに向けた取組が必要です。

専門家と学校を訪問しながら、学校における感染対策のポイントをまとめました。

これらを参考に、感染症の流行状況に応じて、対策を強化したり緩めたりしながら、「いつ、どのような感染症が流行しても、速やかに感染拡大防止の対策をとることができる学校」になるための取組をお願いします。

手指衛生

人は“無意識”に顔を触っています。粘膜から感染しないよう、手をきれいにしておくことが重要です。

アルコールは汚れに弱く、効かないウイルスがあったり、アルコールで手が荒れる人もいますので、ハンドソープでの丁寧な手洗いを基本として、アルコールは補助的に使用するとよいです。

1時間に平均23回



- ☑ 30秒程度、ハンドソープで手洗い（食事の前後、トイレの後、共有物を触った後・帰宅後）

ハンドソープは、蛇口1つにつき1本置いてあるとよい



ノロウイルスやロタウイルスは、ネットに入った固形せっけんを介して感染することがあるため、気をつけなければならない



手指消毒薬と洗剤を同じ場所に置かない方がよい（間違える可能性）



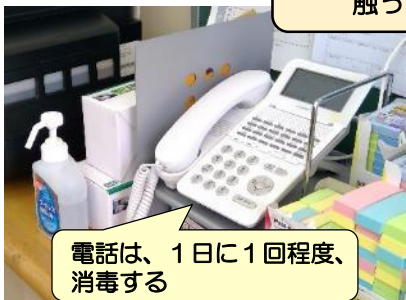
人の動線に沿って手指消毒薬を置く（玄関、職員室、教室の入口等）



手指消毒薬は、たっぷりつけて、乾くまでこすり合わせる

多くの人が触れる物は、その都度拭き取るのではなく、触った人が直後に手指消毒を行う方が、費用対効果が高い

電話は、1日に1回程度、消毒する



共有物のそばにアルコールを設置



疑似症

症状があって会食に参加し、感染拡大した事例が多数ありました。
感染症対策としては、症状がある人が集団の中に入らないことが非常に重要です。
新型コロナウイルス感染症については「症状がある場合は自宅で休養する」を徹底すること。そのほかの感染症については、症状がある人が軽症で登校する場合は、マスクを着用することが大切です。

- ☑ 毎日健康観察を行い、毎日結果を確認して、欠席者や体調不良者が増えてきた場合、**注意喚起**を行う（疑わしい症状がある場合は自宅で休養する、感染リスクが高い活動は控える、など）
- ☑ 保健室は、コロナと関係ない児童生徒が出入りするため、疑似症の人と交差しないようスペースや動線を工夫する
- ☑ 症状がある児童生徒に対応するときは、フェイスシールド等を着用する
 - * 感染の門戸となる粘膜（目など）を保護
 - * 養護教諭は複数の人と関わるため、児童生徒と自分を守るために必要
 - * 必要に応じて、事前に児童生徒や保護者に説明を行う



疑わしい症状がある児童生徒の対応は別室が望ましい。換気をしっかり。

寝具は、枕と布団の口元の部分は、タオルや使い捨てシートを使用し、使用者ごとに交換する



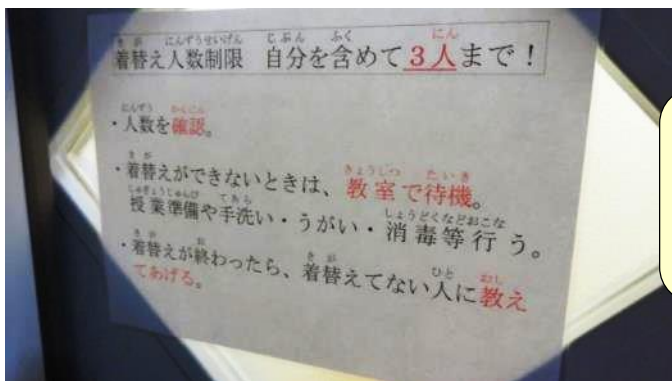
2020年にクルーズ船で感染拡大が起きたとき、感染者の枕からもウイルスが比較的多く検出された



ぬいぐるみは様々な人が触るため、感染症の流行期は、置かないか、触るごとに手を洗う。

密の回避

放課後のマスクをはずして飲食をする場面や、狭くて換気が悪い更衣室で感染拡大した事例がありました。
感染拡大しやすい機会・場所（マスクを外して長時間話をする、換気が悪い、運動の前後など）を見極めて、密にならない、マスクをはずしたまま長時間会話をしない、などの対策を行いましょう。



更衣室の人数を制限して、交代で速やかに着替える



アコーディオンカーテンは拭き取ることができるので、感染症対策においては優れもの！

空き教室を利用して、分散して着替える

寮や寄宿舎で完全な感染症対策を行うことは困難。
初発（最初の感染者）をできるだけ早く捉えて、素早く対応し、広げないことが重要



寮や寄宿舎で陽性者が出て、食事をとらなければならない場合は、紙皿で提供する



脱衣所が密になりやすく、マスクをはずした状態で会話をすることが多いため、注意が必要

食堂など食事をする場所は、間隔を空けて一方向を向き、大声での会話を控える。換気もしっかりと行う。

お風呂も、時間を決めて人数制限を行い、交代制で使用する

換気

感染症対策としての換気の方法は、高い濃度が長く続かない（高濃度のところに長時間いない）ようにすることが重要です。コロナウイルスの濃度を測定することはできないため、学校環境衛生基準の項目である二酸化炭素濃度を換気の指標として使用します。

換気で感染リスクを0（ゼロ）にすることはできません。冬季間は、室温が下がりすぎることによる健康被害の心配もあります。CO₂モニターを使って、それぞれの校舎に合った、寒さを感じにくい換気方法を検証しましょう。

☑ いつもの換気方法で、人の多い時間帯に二酸化炭素濃度を計測（1000ppm以下が望ましい、1500ppmは超えないようにする）

☑ 基準を超えるようであれば、

- ・換気扇やガラリを清掃してみる
- ・窓とドアの開け幅を少しずつ大きくしてみる
- ・サーキュレーター等を活用して、教室内の空気を外に出す補助をする



換気装置あり



窓設置の換気扇



ドアのガラリ
または



天井設置の換気装置



らん間や戸を少し開く



天井設置の熱交換換気

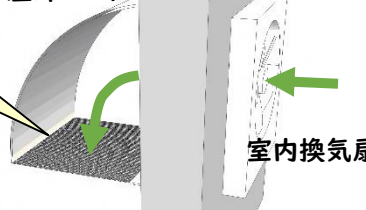
ドアやらん間を開ける必要はない。

熱交換換気装置のフィルター



こんなにホコリがたまっていることも！

屋外フード

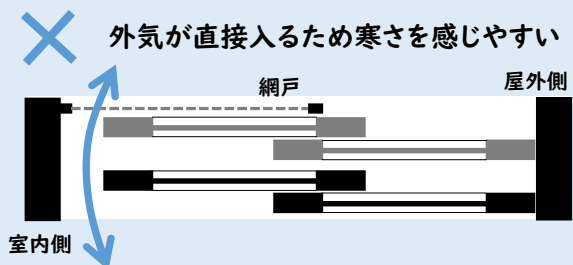


室内換気扇

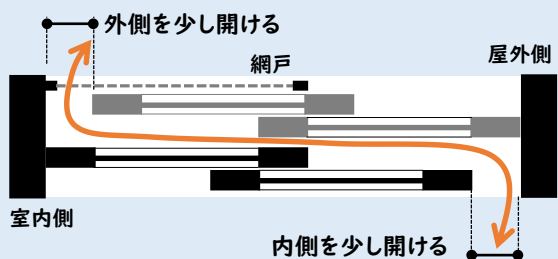
屋外フード内の防虫網もほこりで詰まっているかも

**1年に1回は清掃して
正常な換気量を確保**

① 二重窓の場合、外側と内側を互い違いに開ける。同時に廊下側のドアを窓の開けている面積の4倍くらいを目安に開ける。



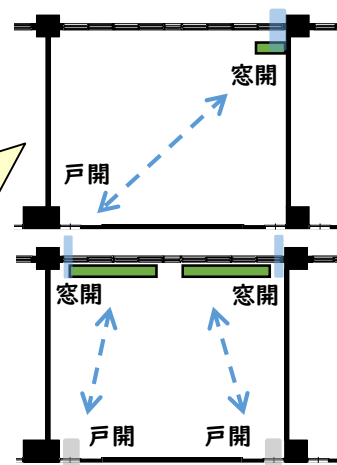
○ 外気を窓の間に少し加温するためやや寒さを緩和できる



② 教室に入る冷たい空気は下に落ちるので、ストーブの上の窓を開けて空気を暖める

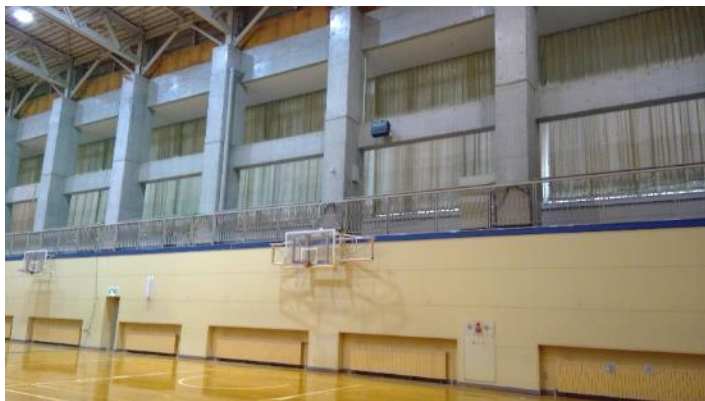


教室前側窓と後ろ側ドア、または、教室前後の窓と前後のドアを開けるなど、空気が教室を横切るように流れるようにするとよい



カーテンが窓に吸い付かないよう、ついたて等でカーテンを引っ張り、空間を作る工夫が必要

窓を開けているすぐ近くに席がある場合、ついたてで直接風が当たらないような工夫をしないと、寒さも感じにくい

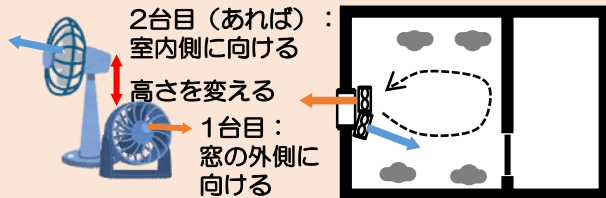


体育館は、上の窓を開けるのは大変なので、日常的には下のドア2箇所を開ける。行事など、人が多く入る場合は、下のドアを閉めて、上の窓を左右5箇所ずつくらい5~10cm開ける(温度が下がらない程度でよい)

サーキュレーター の 使い方

■換気装置もなく開口が1面しかないとき※

※窓を2面開けた方が換気できる



■温度むらを減らす(換気には寄与しません)

下(低温)から斜め上(高温)に向ける。

